

# 令和7年度入学者選抜学力検査問題

## 国 語

### 注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 検査時間は、9時25分から10時15分までの50分間です。
- 3 大きな問題は全部で5問で、表紙を除いて9ページです。  
また、別に解答用紙が(1)、(2)の2枚あります。
- 4 監督者の「始め」の合図があったら、すぐに受検番号をこの表紙と解答用紙(1)、(2)のきめられた欄に書きなさい。
- 5 答えは、必ず解答用紙のきめられた欄にはっきりと書きなさい。  
また、特に指示のあるもののほかは、各問いのア、イ、ウ、エのうちから最も適当なものをそれぞれ一つ選んで、その記号を書きなさい。
- 6 答えの字数が指示されている問いについては、句読点や「 」などの符号も字数に数えるものとします。
- 7 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、筆記用具をおきなさい。

受 検 番 号

番

1

次の1、2の問いに答えなさい。

1 次の——線の部分の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) 品物を販売する。
- (2) 大根を煮る。
- (3) 友人と意見を交換する。
- (4) 歓迎の催しを開く。
- (5) 作文を添削する。

2 次の——線の部分を漢字で書きなさい。

- (1) 荷物をアズける。
- (2) 全力トウキユウをする。
- (3) 人形をアヤツる。
- (4) ガイロ樹を植える。
- (5) エンゲキを鑑賞する。

2

次の〈A〉、〈B〉の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

〈A〉〈今野真二〉「日本語と漢字」

日本語と中国語とは言語が異なるので、そもそも準備されている語の全体としての「配置」（＝語彙体系）が異なる。日本語の文字化にあたって、中国語のように漢字を使うことはできないし、日本語にぴったりと沿って漢字を使うこともできない。つまり、漢字を使って日本語を文字化しようとする、何らかの「ずれ」を生じることになる。

「何らかの『ずれ』を生じること」は認めるしかない。それを認めることは「諦めた」というようなことではまったくなく、漢字による日本語の文字化に伴って必ず起こることがすでにつかめ

ていたということといってもよい。おそらく、現代日本語母語話者には、「漢字による日本語の文字化に『ずれ』が内包されている」ということがわかりにくいと思うので、折に触れてそのことについては述べていきたい。

ある言語Xをある言語Yに移すことが翻訳だから、翻訳によってももとの内容〓言いたいことが少しずつれてしまうこともある。これはわかりやすいだろう。翻訳は、内容〓言いたいことを伝えることに重点があるとみるならば、内容が伝わりさえすればよい。こういう日本語を伝えようとしていたのです、ということまで伝える必要がないとすれば、そこでは具体的な日本語の形、すなわち語形はあまり問題ではない、ということになる。

日本語母語話者が、英語圏に行って、自身の「言いたいこと」を英語で話したとしよう。相手に自身の言いたいことを伝えることが目的だから、それが相手に伝わりさえすれば、自身の「言いたいこと」はそもそもこういう日本語であったということはあまり問題にならないということと似ている。

中国語における漢字は表語文字であるから、語すなわち語義を示すことにはたけている文字ということになる。したがって、漢字によって日本語を翻訳できないことはないし、文字化できないことはない。しかしその翻訳や文字化は漢字寄り、すなわち中国語寄りにはできない。

具体的な日本語はどうなのか、ということになると、「微調整」をして日本語側に少し引き戻す必要がある。そうした「微調整」のために表音文字である仮名がうまれたとみると、仮名がうまれても漢字

を捨てなかった理由がきれいに説明できる。漢字によって日本語は文字化できる。できるけれども「微調整」<sup>2)</sup>できればもつと日本語の形がはつきりする。仮名は「微調整」のためのものだから、「文字化の主役」にはならない。仮名発生後も、仮名だけで文字化された文献の数が多くないのはそういうことだろう。そう考えると漢字が「文字化の主役」であることは八世紀の時点ですでに決まっていたことになる。日本語を文字化する「システム」があると考えた時に、漢字が「メインシステム」を支え、仮名は「サブシステム」として「日本語の文字化」を支えているといえるのではないだろうか。

〔B〕加藤徹「漢文の素養」

中国人は、古来、色彩感覚に敏感な民族であった。例えば、同じミドリ色でも、

緑 りよく 植物系の暖かいミドリ

碧 へき 宝石のような無機質で冷たいミドリ

翠 すい カワセミの羽のように光かがやく高貴なミドリ

など、まったく違う語で言い分けた。

これと対照的に、古代ヤマト民族は、色彩を表す言葉をあまりもたなかった。

和語の赤は「明し」、青は「淡し」、白は「著し」、黒は「暗し」、という明暗濃淡を示す語の転用である。現代日本語でも、明るい太陽を「真つ赤な太陽」、淡く輝く月を「青い月」と言うのは、古代の名残である。現代日本人の目に、太陽の色がレッドに見えたり、月が

ブルーに見えているわけではない。

和語のミドリは、もともとは色彩ではなく触感を表す語で、和語ミヅ(水)の派生語である。例えばミドリゴ(嬰兒)は、みずみずしい肌のふくよかな赤ちゃん、という触感的表現である。「緑色の赤ちゃん」という意味ではない(ちなみに「ミドリの黒髪」は、濃緑色のつやがある黒髪を意味する漢語「緑髪」の訓読語で、こちらは色彩語である)。

ヤマト民族は六世紀ごろから、本格的に漢字を学び始め、漢字で自分たちの言葉を書き記すようになった。和語ミドリには、「緑」という漢字をあてた。たしかに「緑」は、みずみずしい草や木の葉の色を表すのにふさわしい漢字である。しかし、緑にはグリーンという色彩の意味もあつた。その結果、いわゆる「軒を貸して母屋を取られる」現象が起きた。触感語だった和語ミドリは、漢語の緑の意味に引きずられ、純粹な色彩語に転じてしまったのである。和語ミドリの本来の意味は、「みどり」という熟語のなかで、「生きた化石」のように保存されることになった。

(注) 軒を貸して母屋を取られる＝「二部を貸したがために全部を取られてしまう」という意味の慣用句。

1  に入る語として最も適当なものはどれか。

- ア それとも  
イ しかし  
ウ なぜなら  
エ では

2 語形はあまり問題ではない とあるが、それはなぜか。

- ア 翻訳では言いたいことが伝わるのが大切だから。
- イ 意思の疎通を図るには語形への理解が必要だから。
- ウ 翻訳による内容のずれを防ぐことは不可能だから。
- エ 異なる言語の形を正確に捉えることは困難だから。

3 「微調整」できればもつと日本語の形がはつきりする とあるが、日本語の形をはつきりさせるための「微調整」とはどういうことか。六十字以内で書きなさい。

4 〈B〉の文章についてある生徒が次のようにまとめた。これを見て、(I)、(II)の問いに答えなさい。

【和語ミドリと漢字「緑」の関係】

- ・和語ミドリはもともと  を表す語。
- ・漢字「緑」は  を表す字。
- ・和語ミドリに漢字「緑」をあてた。

←

- ・和語ミドリが  を表すようになった。
- || 「軒を貸して母屋を取られる」現象。

※「生きた化石」のように保存されるとは？

↓「みどり」という語に、  ということ。

- (I)
- ア X 明暗 Y 濃淡
  - イ X 濃淡 Y 明暗
  - ウ X 色彩 Y 触感
  - エ X 触感 Y 色彩
- に入る言葉の組み合わせはどれか。

(II)  に入る内容として、最も適当なものはどれか。

- ア 緑という漢語に象徴される、古代中国の人々の敏感な色彩感覚が残っている。
- イ 和語ミドリの持つ、現在では消滅したと見なされる本来の意味が残っている。
- ウ 和語ミヅを起源として、日本において多くの語が派生した証拠が残っている。
- エ 漢字「緑」が伝える、古代から現代までの日本語の変遷の歴史が残っている。

5 〈A〉、〈B〉の文章に共通する内容として、最も適当なものはどれか。

- ア 漢字本来の意味には中国の文化が反映されているので、日本人にとつての漢字は中国語の意味を離れ、表記を中心に役立てられている。
- イ 日本人は独自の文字を持っていなかったために、言語の文字化の手段として漢字を選び、代償として日本語本来の意味を喪失している。
- ウ 日本人は漢字を享受する中で、日本語と中国語を表記や意味の面から融合させ、変化を受け入れながら独自の言語体系を保持してきた。
- エ 漢字には音とともに意味を表す性質があり、翻訳しても異なる言語間での意味の相違が一切なく、日本人にとつて使用が容易であった。

次の文章を読んで、1から5までの問いに答えなさい。

高校生の「私」(舞沢雛)と遠野は、漫画家になるという共通の目標をもち、原作と作画をそれぞれ担当しながら放課後の図書室で漫画作りをしている。「私」は、遠野との漫画作りと並行して一人で描いていた漫画を、月刊誌「コミックエント」の新人賞(注1)に応募していた。二人で作っている漫画がまもなく完成するというときに、「私」の家に電話がかかってきた。

「はい、もしもし。お電話代わりました。」

「舞沢雛様ですか。突然のお電話申し訳ございません。私、『コミックエント』の編集をしております宮崎と申しますが。」

その名前を聞いた瞬間、私だけ時間が停止した。体は硬直し、息は止まり、思考が寸断される。それでも相手の女はまだ話を続けようとしてくる。

「おめでとうございます。舞沢さんの『鏡を割れ』が最優秀新人賞を受賞しました。私も大変面白く読ませていただきました。」

最優秀新人賞。つまり、幾多ある漫画の中で、私の描いたものが一番優れていると判断されたということだ。状況は理解できたが、感情が追い付かない。

「ありがとうございます。」

(1) 掠れた声が出た。何度も頭の中で繰り返していたシチュエーションだった。なのに実際その場に立たされると、何と言っていないか分からなくなる。

からなくなる。

「つきましては『鏡を割れ』を二月号の冊子に掲載させていただきます。それどころにはゆくゆくというお話なのですが、舞沢さんに連載をお願いしたく考えておりました。」

「連載……。」

「はい。詳細はメールでお送りいたしますが、考えていただけますと幸いです。」

その後も宮崎と名乗る編集者は事務的の用件を伝え、最後に事態が呑み込めない私を置き去りにしたまま、電話は切れた。

しばらくして、じわじわと喜びが這い上がってくる。

やった。やった。ついに。ついにやったんだ。私は、私は、漫画家になれた。なれたんだ。

廊下を駆けリビングのドアを開ける。母がソファに腰掛けながらドラマの再放送を見ていた。

「ねえ、お母さん、お母さん！ 私、賞取ったの！ 漫画家になれるんだよ！」

しかし母はテレビから目を離さず答える。

「いつつも言ってるでしょー、雛ちゃん。漫画ばかり描いてちゃダメなんだからねー。」

その言葉で一気に熱が冷める。そうだ。この人はこういう人だった。嬉々として伝えた私が馬鹿みたいだ。無言でリビングを出て、自分の部屋に戻る。

どうせ誰からも祝福されたりなんかしない。イラストサイトで報告したところでリアクションなど返ってこないだろう。

そのとき、ふと遠野の顔が浮かんだ。そうだ、遠野にはちゃんと言わなければ。

テーブルの上には、遠野に渡す用の書きかけのネーム。<sup>(注<sup>2</sup>)</sup> 一番のクライマックスの部分。

遠野は、一体どんな反応をするんだろう。聞くのが怖かった。

翌日の放課後。私たちはいつものように図書室へ集まる。遠野だけがいつものように、作画の作業を進めている。私は真っ白な紙に何も書けないまま、遠野の細い指を見つめている。

遠野と漫画を描くことは楽しかった。自分の描いたものを面白いと言ってもらえることも、向かい合ってどうでもいいような漫画の話をする 것도。何より、自分を理解してもらえていることが、嬉しかった。

遠野との合作はかなり面白いものになるだろう。どこかの賞に出せばおそらくかなりいいところまで行く。二人で漫画家になれたらと語った絵空事がもし現実になるのなら、きっと私は一生退屈しない。

<sup>2</sup>い。でも、だけど、それでも。

私は自分の絵で、自分の物語で、漫画を描きたい。認められた

そのためなら、目の前の理解者を切り捨てることなんて、容易なことだ。

「ねえ、遠野。」

「なにー？」遠野は漫画を描きながら答える。

「遠野に話があるんだよね。」

「なにに。どうしたんだい雛ちゃん。」

「私、新人賞受賞した。この前出したコミックエントのやつ。連載もしないかって言われた。その話、受けようかと思ってる。」

遠野のペンを持つ手がびたりと止まる。勢い良く上げた顔には驚嘆が宿っていた。

きつと遠野はそれだけで私の言わんとしていることを理解できただろう。連載ともなれば他の漫画に割く時間はなくなる。遠野との漫画も描けなくなる。この作品を、どこかの新人賞に応募することだつてできない。

彼女は驚嘆の後にはどんな感情を宿すのだろうか。一緒に漫画家になろうって約束したじゃない、と怒るだろうか。それとも、ここまで頑張ってきたのに、と悲しむだろうか。

見開いた目が細められ、遠野に満面の笑みが浮かぶ。

「ええー！ すごい！ すごいよ雛ちゃん！ おめでとー！」

遠野が私の手を取ってぶんぶんと振る。大袈裟おおげさなくらいの喜びようだ。

「ありがとう。漫画、完成させられなくてごめん。」

「全然いいよー、仕方ないよー！ えーすごいすごい、本当におめでとー！」

いつも嘘うそを言わない遠野だからこそ、その祝福に偽りのないことがありありと分かった。遠野の手が温かい。嫉妬や軽蔑や、冷たい

感情が一切感じられない温かな手。

彼女はまるで自分のことのように今後のことを語る。学校行きながら連載なんてすつごく大変だよ。今後アシスタントとかついたりするのかな。今からサインの練習しておかきやだね！

③ 私は黙ったまま、その様子をただ見つめていた。

机の上には、描きかけの漫画が置かれている。美しく繊細な、妥協のない完璧な絵だった。<sup>④</sup> (君鳴彼方<sup>きみじまかなた</sup>「春のほとりで」から)

(注1) コミックエントラ漫画雑誌の名前。

(注2) ネーム漫画のせりふや構成などを示した下書き。

1  に入る語句として最も適当なものはどれか。

ア 黙々と      イ 沸々と      ウ 堂々と      エ 淡々と

2 <sup>①</sup> 掠れた声が出た。とあるが、このときの「私」についての説明として最も適当なものはどれか。

ア 繰り返しイメージしていた受賞の連絡を受けたが、歓喜のあまり話を冷静に聞くことができていない。

イ 突然連絡をしてきた雑誌編集者の話の内容を素直に受け止められず、感謝することをためらっている。

ウ 受賞の事実を理解しつつも気持ちがいまいち付かず、想像していたようには対応することができていない。

エ 雑誌編集者から漫画の連載が決定したことを伝えられたが、創作を続けることへの不安が募っている。

3 <sup>②</sup> でも、だけど、それでもとあるが、どのような「私」の心情が読み取れるか。五十字以内で書きなさい。

4 <sup>③</sup> 私は黙ったまま、その様子をただ見つめていた。とあるが、なぜか。五十五字以内で書きなさい。

5 <sup>④</sup> 美しく繊細な、妥協のない完璧な絵だったの表現上の効果として最も適当なものはどれか。

ア 完璧な絵を描く遠野の才能を妬む「私」の姿を表現し、決裂した二人の関係を読者に示唆する効果。

イ 遠野の描く絵の美しさを強調することにより、「私」から見た遠野の人物像を読者に印象付ける効果。

ウ 妥協のない絵によって遠野の人物を明示し、一人で進む決断をした「私」への共感を読者に促す効果。

エ 遠野が描く絵の繊細さに「私」の心情を重ねることにより、「私」が歩む未来を読者に暗示する効果。

次の文章を読んで、1から4までの問いに答えなさい。(……)の左側は現代語訳である。

天明元年に酒井雅楽頭(注1)台命(注2)をかうむり上京ありしが、雅楽頭は

いまだ壮年にて常に狎(ちん)を愛しけるが、右の内最愛の狎は在所往来に

も召し連れ給ひしが、此度(このたび)公(こう)の重き御用(ごよう)ゆゑ(中)連れまじき由(よし)の所、

出立の日に至り駕籠(かご)をはなれず。近習(ちかじゆ)のもの駕へ入れじと防ぎし

に、或(ある)いは吠(ほ)え或(ある)いは食(た)ひついて手に余(あ)りぬれば、品川(しんがわ)の駅(えき)より

返しなんとて品川(しんがわ)まで召し連れ、右(みぎ)駅(えき)に至りけるゆゑ(宿場)これより返

しなんと色々(いろいろ)なしぬれど、とかくに屋敷(やしき)にての通りゆゑ、是非(ぜひ)なく

上方(かみかた)まで召し連れけるに、よき犬(いぬ)にや有(あ)りけむ、京(きやう)にもその沙汰(さた)あ

りて、天聴(てんてい)に入りぬれば、「畜類(ちくるい)ながらその主人(しゆじん)の跡(あと)をおふ心のあ

はれなり」とて、六位(ろくゐ)を賜(たま)はりしとかや。これを聞(き)きて事を好(この)む

殿上人(てんじやうひと)の口(くち)すさびや、亦(また)は京童(きやうどう)の申(まを)しけるや、

くらひつく犬(いぬ)とぞ兼(かね)てしるならばみな世(よ)の人のうやまはんはん

(注1) 酒井雅楽頭 || 酒井忠以 (注2) 狎 || 犬の一種。

(注3) 品川 || 現在の東京都品川区付近。

(注4) 六位 || 官位の一つ。

(注5) 殿上人 || 帝の側に仕える貴族。

1 ゆゑ は現代ではどう読むか。現代かなづかいを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

2 入れじと防ぎし とあるが、犬を「入れまいと防いだ」のはなぜか。そのことについて説明した次の文の [ ] に当てはまるように現代語で十五字以内で書きなさい。

[ ] ため連れて行けないから。

3 その沙汰 とはどういうことを指しているか。

ア 飼い主の雅楽頭が犬好きであるということ。

イ 飼い主の雅楽頭が犬を京に置いてきたこと。

ウ 犬が主人の側を離れようとしなかったこと。

エ 犬が人間を恐れて近づいて来なかったこと。

4 次の会話文は、「動物と古典文学」というテーマの授業でこの文章を読んだ先生と生徒の会話の一部である。これを読んで、(I)から(III)の問いに答えなさい。

先生 「本文最後の歌には掛詞が使われていますね。」

生徒A 「本当だ。『くらひつく』には、『かみつく』という意味の『食らひつく』と、犬が『a]につく』という

二通りの意味があります。」

生徒B 「もしかして、『うやまはんはん』は犬の鳴き声を表していますか？」

先生 「そうですね。『敬うだろう』という意味の『敬はん』の『はん』を繰り返して、『わんわん』と犬の鳴き声を表していますね。このように、動物が出てくる古典文学

作品はたくさんあります。これから図書室へ移動して、色々な作品を読んでみましょう。」

—(図書室へ移動)—

生徒A 「授業で読んだ江戸時代に書かれた『耳囊』では犬が大切にされていたけれど、平安時代に書かれた『枕草子』では猫が『命婦のおとど』と名付けられて大切にされていたよ。」

生徒B 「鎌倉時代に書かれた『徒然草』には、『猫また』という妖怪を怖がる描写があるね。自分の飼いだを『猫また』だと勘違いしていたみたい。面白いな。」

生徒C 「梅堯臣<sup>ばいぎょうしん</sup>という詩人が詠んだ、猫を題材にした漢詩があったよ。『鼠は我が書を侵さず』。どういう意味だろう。」

生徒A 「猫を飼ったことで鼠に書物をかじられなくなった、ということだね。今回読んだ古典作品から、**b** ということがわかったね。古典に興味が湧くな。」

(I) **a** に入る語を漢字一字で書きなさい。

(II) 鼠は我が書を侵さず という読み方になるような返り点の付け方として最も適当なものとはどれか。

ア 鼠<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>侵<sup>ニ</sup>我<sup>ガ</sup>書<sup>ヲ</sup> 一 イ 鼠<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>侵<sup>サ</sup>我<sup>ガ</sup>書<sup>ヲ</sup>  
ウ 鼠<sup>ハ</sup>不<sup>ニ</sup>侵<sup>レ</sup>我<sup>ガ</sup>書<sup>ヲ</sup> 一 エ 鼠<sup>ハ</sup>不<sup>ニ</sup>侵<sup>サ</sup>我<sup>ガ</sup>書<sup>ヲ</sup> 一

(III) 会話を踏まえて **b** に当てはまる内容として最も適当なものとはどれか。

ア 今に比べ昔の方が動物を愛すべき存在として表現していた  
イ 昔に比べ今の方が動物を実用的な存在として描写している  
ウ いつの時代でも動物は恐ろしい存在として表現されている  
エ 様々な時代で動物は人間の身近な存在として描かれていた

5

次の会話文は、「栃木県の歴史」に関する発表の準備を行っているグループの会話の一部である。これを読んで、1から6までの問いに答えなさい。

生徒A 「私たちのグループは栃木県の歴史的な建造物について発表しようよ。」

生徒B 「美術の先生に相談したら『とちぎデジタルミュージアム』“SHUGYOKU”(珠玉)を教えてください。このホームページで栃木県内の様々な芸術作品のデジタルデータが調べられるから、見てみよう。」

生徒A 「わあ、きれいだな。建造物だけではなくて、絵画や工芸品<sup>③</sup>彫刻も掲載されているよ。タブレットで画像を拡大して見ることもできるね。実物も見てみたいな。」

生徒B 「素敵な画像だから、これをコピーしてスライドに貼り付けようか。」

生徒C 「ちよつと待って。この前の授業で、誰かの著作物を使用するには、著作権に気を付けようと先生が言っていたよ。先生が配布したプリントがここにあるよ。」

生徒A 「著作権に関するアンケート結果だね。この表には、**□** という結果が示されているね。」

生徒C 「私たちもルールを守りながら、みんなに栃木県の魅力が伝わる発表にしていこう。」

【先生が配布したプリント】

鑑賞や創作などの文化芸術活動の中で著作権について気にかけていることは何ですか。(18歳以上を対象・複数回答)

項目	回答(%)	
	全体	18・19歳
(注) SNS等に投稿する際は、著作権を侵害していないか注意しながら発信を行っている。	10.6	27.6
自分の作品に他人の作品を利用する際、作品名や作者名を記載するなどのルールを守って利用している。	7.8	14.7
著作権については、特に意識していない。	60.2	40.4

(注) SNSソーシャル・ネットワーキング・サービス

(文化庁「令和五年度 文化に関する世論調査」より作成)

1 ① 相談 という熟語に使われている「相」の意味として、最も適当なものはどれか。

- ア 物の姿、様子  
イ 補佐する  
ウ 詳しく見る  
エ 互いに

2 ② 見 同じ活用形のものどれか。

- ア 新刊を|読み|たい。  
イ 部員全員が|集ま|る。  
ウ まだバスが|来|ない。  
エ |走れば|間に合う。

3 ③ 彫刻 と熟語の構成が同じものはどれか。

- ア 机上    イ 行進    ウ 防水    エ 因果

4 ④ 言つて を正しい敬語表現に改めたものとその敬語の種類のみ合わせとして最も適当なものはどれか。

- ア おっしゃって・尊敬語    イ 申して・尊敬語  
ウ おっしゃって・謙讓語    エ 申して・謙讓語

5 会話文中の  に入る内容として最も適当なものはどれか。

- ア 著作権を重視する十代の過半数がSNSを利用している  
イ 無意識のうちに著作権を侵害する人の割合が全体で高い  
ウ 著作権を意識している十代の割合は全体と比較して高い  
エ 学校の授業中に著作権についての学習が進められている

6 あなたが音楽や美術などの芸術を鑑賞するとき、「事前に作品について調べてから鑑賞する方法」と、「実際に作品を鑑賞してから詳しく調べる方法」では、どちらを選ぶか。あなたの考えを国語解答用紙(2)に二百字以上二百四十字以内で書きなさい。

なお、次の《条件》に従って書くこと。

《条件》

- (i) どちらかの方法を選ぶこと。  
(ii) 選んだ理由を明確にすること。

(問題は以上です。)

国語採点基準

(総点100点)

**〔注意〕**

- この配点は、標準的な配点を示したものである。
- 定められた欄に答えが書かれていないときは、点を与えない。
- 指示された答えと違う表現で記入されていても、正答と認められるものには、点を与える。
- 定められた数より多く答えるときは、点を与えない。
- 採点上の細部については、各学校の判断によるものとする。

**〔5〕6 (作文の評価の観点)**

- 形式 目的に応じた適切な叙述であるか。
- 内容 字数や条件に合っているか。
- 表現 立場や理由を明確にして、自分の意見をわかりやすく筋道立てて述べているか。
- 表記 文体に統一性や妥当性があるか。
- 主述関係や係り受けなどが適切であるか。
- 語句が適切に使用されているか。
- 誤字・脱字がないか。

※ これらの項目に照らし、各学校の実態に即して総合的に評価するものとする。

得点 12

1							
2				1			
(4)		(1)		(4)		(1)	
街	ガイ	預	アズ	催	もよお	販	はん
路	ロ	ける	ける	し	し	売	ばい
(5)		(2)		(5)		(2)	
演	エン	投	トウ	添	てん	煮	に
劇	ゲキ	球	キユウ	削	さく	る	る
2点×5				(3)		2点×5	
				操	アヤツ		
				る	る		

得点 20

2										
5		4		3				2		1
		(II)	(I)	(例)				ア		イ
ウ		イ		エ		寄	仮	を	日	
5点		3点		3点		り	名	使	本	
						に	を	う	語	
						戻	加	と	の	
						す	え	中	文	
						と	て	国	字	
						い	使	語	化	
						う	う	寄	に	
						こ	こ	り	あ	
						と	と	に	た	
						。	で	な	っ	
								る	て	
							日	の	、	
							本	で	漢	
							語	、	字	

得点 22

3												
5		4				3				2		1
				(例)		(例)				ウ		エ
イ		を	い	る	遠	心	認	夢	遠			
4点		遠	う	覚	野	情	め	見	野			
		く	予	悟	に	。	ら	な	と			
		感	想	で	怒		れ	が	二			
		じ	外	い	り		た	ら	人			
		た	の	た	や		い	も	で			
		か	反	が	悲		思	、	漫			
		ら	応	、	し		い	自	画			
		。	に	心	み		を	分	家			
			、	か	を		捨	一	に			
		遠	ら	ぶ			て	人	な			
		野	の	つ			き	の	る			
		の	祝	け			れ	作	こ			
		存	福	ら			な	品	と			
		在	と	れ			い	で	を			

得点 22

4						
4		3		2		1
(III)		(II)	(I)	ウ		ゆえ
エ		ア	位	2点		2点
2点		2点	3点			

ため連れて行けないから。

得点 14

5	
4	1
ア	エ
5	2
ウ	ア
3	
	イ
2点×5	

得点 10